

提出日： 2026 年 7 月 27 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
法学部	教授	黒崎剛

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日	4
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日	
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日	
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	ドイツ・デュッセルドルフ市に滞在し、ルール大学(ボーフム)に所属。この期間全日を通して、主に私の博士論文『ヘーゲル・未完の弁証法』(2012、早稲田大学出版会)のドイツ語版を作成し、「国際ヘーゲル協会」の叢書として刊行することに費やした。本書はヘーゲルの認識方法論の全容とその欠陥を明らかにしたもので、日本での審査者からドイツでも例を見ないユニークな学説を含んでおり、日本のヘーゲル研究の水準を示すものであると評価された。そして審査員諸氏からドイツでの出版を強く勧められ、上記学会の理事宛の推薦書を複数頂いた上で渡独した。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	申請期間中に2つの課題を達成した。第一は、上記の通り、私の博士論文『ヘーゲル・未完の弁証法』ドイツ語試訳を関し得させ、ドイツの研究者と議論を重ね、「国際ヘーゲル協会」の叢書として発表できるよう審査を依頼。2026年7月に採用決定通知あり。2027年第二四半期にフェリックス・マイナー社より刊行が決まる。第二に、第一の課題から引き出せる帰結として、人間の理性的認識はどのような論理に従えば可能なのかを明らかにする論文を前掲著書の続編として仕上げた。論文名:「現代社会を理解するための『大論理学』注釈(11) 第二部・『第二書 本質』・その 2「第一編 それ自身の内での反省としての本質」「第 2 章 本質態あるいは反省の諸規定」への注釈」所収「ヘーゲル論理学研究」第 31 号(ヘーゲル<論理学>研究会編)39～144 頁)	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	上記著書はもともと私の学位論文であり、専門的に書かれたものであるが、これをより一般的な本に書き直して出版する予定。 また、上記のヘーゲル研究を含む近代哲学史をまとめて刊行の予定。本学での「哲学史」講義がもとに成っている。	